

植生の改良と除草剤

今や、除草剤の利用は水田や畑だけでなく、果樹園・桑園・林地など各種の耕地にひろがり、さらには芝生や工場・家庭の敷地などでも使用されるようになってきた。労働力の節約を通じて、社会の発展に果している除草剤の役割は極めて大きいのであるが、一方では自然の植物群落構造に及ぼす影響が心配されるようになってきている。除草剤の使用が一般的になるにしたがって、除草剤が果している役割を評価しないで、その欠点だけを誇大に扱うという傾向が強くなるおそれがある。

それにつけても「雑草とは人類に害を与える植物である」という定義の実質を明確にすることが重要であろう。あるときは有用植物になり、あるときは雑草になる植物も多く、人類にとって有害な植物と有用な植物の区分をそれぞれの場について明確にする必要がある。除草剤の種類によって選択殺草性が異なり、また植物の生育状態によって除草剤に対する感受性が違ってくるのであるから、有害植物を抑制し、有用植物の繁栄をはかるために除草剤をうまく活用しなければならない。人間の意志によって、植物群落構造を自由に調節するための除草剤の研究が重要になってくる。そのときは、除草剤研究協会ではない植物調節剤研究協会も、その名にふさわしい研究を促進するため、これまで以上に貢献するようになるであろう。

農林省農事試験場 中川 恭二郎

目 次

ワラビと牛の汎骨髄瘍について

1. わが国における牛の汎骨髄瘍の発生状況 2
2. 汎骨髄瘍の原因 3
3. ワラビの毒成分 5
4. 汎骨髄瘍の臨床、血液および剖検所検 6
5. 牛の汎骨髄瘍の予防ならびに治療 6

農林省家畜衛生試験場

研究第4部長 米村寿男

ワラビ防除用除草剤の試験研究

1. 供試除草剤の性質 8
2. 試験の方法 8
3. 試験結果の概要 8
4. 今後の問題点 9

農林省九州農業試験場畜産部

丸 岡 詮

昭和44年度牧野草地関係

除草剤試験成績概要

(財) 日本植物調節剤研究協会 10

統計編

除草剤使用面積の推移 11

新除草・調節剤

DBN除草剤 14

M & B 9057除草剤 14

植調協会だより 15